



岐阜大学

# 教育学部同窓会報



2016

No. 22

# 母校の発展を願って



同窓会長 田口 和男  
昭和43年度生物科卒業

## はじめに

教育学部同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は当同窓会に対し、温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回報22号を物故者会員9,717名を除く22,571名の会員の皆様にお届けする運びになりました。

私たち同窓会は総務部会を始め、事業部会、組織部会、広報部会が当初の計画に基づき、その歩みを続けています。本会報においては、その活動の一端と、変わりゆく岐阜大学教育学部の一端を掲載しました。ご一読のほどよろしくお願い申し上げます。

## 心に灯をともし。

先日、久し振りに統合前の長良の地を散策しました。メタセコイアの森の前の駐車場に車を止め、「このあたりに図書館があったな。」とか、「学生食堂はこのあたりかな。」、「4年間学んだ理科棟はこの辺りかな。」など懐かしく散策をしました。旧教育学部の正面玄関辺りに「師魂」と刻まれた巨石がありました。前会長の後藤先生が中心となり、文字を刻み込まれたものです。風格があり、素晴らしいものです。この長良の地で私たち学生の心に灯をともして下さった先生方との出会いや同級生との出会いを思い巡らしながら2時間ほど過ごしました。

## ノートと鉛筆

私の1年生の教養時代は、ただ単位を取るだけに終始した単調なものでした。そのような生活をしている私に素晴らしい出来事が起きました。あの有名な今西錦司先生が岐阜大学の学長になられたのです。勿論、一介の教育学部生が先生に出会えることなんてできま



◀岐阜大学正門



▶教育学部石碑



◀岐阜長良公園  
メタセコイアの森



▶長良校舎跡地  
「師魂」

せん。お話を聞く機会もありません。でも、先生の本の一節に触れた時、先生の虜になっていく自分に気が付きました。その一節は、あの有名な「棲み分け理論」の随想の中での次のような一文であったと記憶しています。



「戦争に負けて、多くの大学の研究者は研究施設が整わない、顕微鏡がない、色々な実験道具も揃わない。」等と嘆き、手をこまねいている時代がありました。

私は、ノートと鉛筆を持って山の中に入りました。そこには研究材料が一杯あったのです。私は歩き周り、記録をし続けた。

私の心に灯をともしていただいたのは今西先生の「ノートと鉛筆」の一節です。

大学二年生の夏、講座の先生から比較的研究の進んでいない「水生昆虫」を調べてみないかと言われました。それは私が幼少の頃から故郷金山町(現下呂市)を流れる馬瀬川で夢中になっていた魚釣りの餌(川虫)のことでした。

岐阜市内の薬局を回り「リポビタンデー」(昭和42年頃のドリンク剤の主流)の空き瓶の回収を行いました。きれいに洗い、臭いも取りました。500本の瓶は私の大切な標本瓶になったのです。私の調査したフィールドは馬瀬川に流れ込む小さな谷「野谷」でした。津田松苗博士の「水生昆虫学」の本を片手に、初めて見る種類に胸を躍らせながら採集し続けました。定量観察の必要性、環境調査の必要性にも気づき、自作の道具を使っただけの調査に明け暮れました。

この学生時代の夏以降、古稀を迎えた現在まで、採集や調査の対象は変わりましたが、野外へ出て、歩いた林道を、採集した生物を、発見したことなどを岐阜県の白地図に色鉛筆で書き込むことが楽しみになっています。

理科教師として野外へ出るという楽しさを教えて頂いたのは、今西先生の「ノートと鉛筆」の一節でした。

## 教育実習生の授業

久しぶりに、生徒たちの心に灯をともす教育実習生に出会うことができました。私はワクワクしながら授

業を参観しました。それは、東濃のN中学校での教育実習生の英語の授業でした。その時の私のメモの概要は次の通りです。

中学校1年英語(T教生)

「相手を自分の好きなことに誘おう。」という授業。

生徒の頭が全員前を向いている。

生徒全体を見つめながら語る姿はよし。

- その語りのAll Englishは流ちょうで、リズム感がよく、1年生によく分かる。
- 語りの一言一言に全身で感情を込めている。
- ジェスチャーも大げさでなく自然でとても良い。
- みんなで学んでいる。
- 一人ひとりが学んでいる。
- 楽しく学んでいる。
- みんなを学ばせている。
- 楽しく学ばせている。

彼には是非とも教師になって欲しいな。教師になって生徒たちに、もっと学びたい、英語が楽しい、という思いを持たせてほしい。生徒の心にそのような灯をともし続けてほしい。

## 学生の心に灯をともす教育学部

先輩から、「生徒に見事な指示ができる教師は素晴らしい。分かりやすく説明できる教師も素晴らしい。もっと素晴らしいのは、生徒の心に灯をともす教師である。」と教えて頂いたことがあります。

岐阜大学教育学部は150年になろうとする歴史の中で、児童・生徒の心に灯をともし続けた数え切れない多くの教師を輩出したと考えています。

現在1,000名を超える学生が学んでいます。

「学生たちの一人でも多くが教師になるように導いて頂きたい。」「一人でも多くの学生の心に灯をともして頂きたい。」そのような教育学部であってほしいと願っています。

私たち教育学部同窓会も全力で応援していきたいと考えています。

# 国立大学法人教員養成学部の課題と改革の方向性 岐阜大学教育学部・教育学研究科の新たな取り組み



教育学部長 池谷 尚剛

### 1. 教育学部・教育学研究科の現況

教育学部は、学校教員養成課程(230名)と特別支援学校教員養成課程(20名)の学生定員250名から構成され、全員が教育職員免許の取得を卒業要件としています。学校教員養成課程では小学校一種・中学校一種(学校教育講座は小と中もしくは諸資格)、特別支援学校教員養成課程では小学校一種・特別支援学校一種を取得します。また、幼稚園、高等学校の教育職員免許、学校図書館司書教諭の取得や、公認スポーツ指導員、博物館学芸員、社会教育主事、認定心理士等の諸資格を取得することができます。平成28年3月卒業生251名の進路状況は、学校教育(教員)と教育・学習支援業が54.2%(平成27年度57.9%)、大学院等の進学19.5%(同17.5%)、官公庁8.8%(同7.5%)、一般企業等17.5%(同17.1%)となっていて、教育関係者の比率が低下する傾向が続いています。尚、教育学部卒業生の累計は17,708名になりました。

大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻(教職大学院:20名)、心理発達支援専攻(11名)、総合教科教育専攻(38名)の学生定員69名で構成されています。教職実践開発専攻には、学校改善・授業開発・教育臨床実践・特別支援学校の4コースがあり、岐阜県教育委員会からの派遣教員が在籍して教育専門職としての力量形成に努めています。また、心理発達支援専攻には、臨床心理学・学校心理学・特別支援教育の3コースがあり、臨床心理士・学校心理士の養成カリキュラムに対応しています。平成26年度から入学生を迎えた総合教科教育専攻には、言語社会コース(国語・英語・社会)、サイエンスコース(理科・数学・技術・家政)、芸術身体表現コース(保健体育・音楽・美術)、カリキュラム開発コースの4コースがあり、サテライト教室の設置やインターネットを活用して社会人学生のニーズに応えるように努めています。平成27年9月と平成28年3月の修了生合計62名のうち、社会人学生19名は現職復帰(13名は県派遣教員)しています。その他の修了生43名の進路状況は、学校教育(教員)が67.4%、専門職の業種等が32.6%となっています。教育学研究科修了生の累計は、

1,249名になりました。

教育学部・教育学研究科の国際交流活動には、外国人留学生の受け入れと外国大学への派遣学生とがあります。平成27年度の外国人留学生は、大学院生4名(中国3名、フィリピン1名)、教員研究留学生2名(タイ王国1名、グアテマラ1名)、研究生4名(中国4名)の計10名でした。海外大学への派遣留学生(短期・長期)は、バイロイト大学(独)1名、ノーザンケンタッキー大学(米)7名、ウエストバージニア大学(米)2名、シーナカリンウィロート大学(タイ)7名、シドニー大学(豪)7名の計24名になり、学生たちの積極的な留学志向が認められます。

教育学部・教育学研究科の附属施設には、加納地区に附属小学校・附属中学校、柳戸地区に郷土博物館、特別支援教育センター、心理教育相談室があり、教育実践に関する先導的・臨床的研究を行うと共に、地域社会に貢献するさまざまな相談・支援機能を発揮しています。

### 2. 国立大学法人の教員養成学部に関する最近の動向

国立大学法人は、平成25年度にその社会的役割を明確にした「ミッションの再定義」を公表しました(同窓会報No.20)。本学部は、卒業生の教員就職率を75%にすること、岐阜県の小学校教員における占有率を40%にすること等を数値目標として設定し、その達成に向けた取り組みを進めてきました。また、平成27年12月に中央教育審議会が取りまとめた三つの答申(教員の資質向上、チーム学校、地域と学校との連携・協働)を実現するためには、教員の資質能力の向上がますます重要なものとなることから、教員のキャリア形成(養成・採用・研修)の継続性・一貫性、特に、教育委員会と教員養成大学が「教員育成指標」「研修計画」「教職課程コアカリキュラム」等を協働して整備・構築する体制整備が必要となります。現在、教育学部・教育学研究科における教員養成のあり方について、岐阜県教育委員会との定期的な意見交換(年2回)を行い、時代の要請に応じていきたいと考えています。一方で、平成28年8月に「国立

教員養成大学、学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」が文部科学省に設置され、国立大学法人における教員養成のあり方を「改革する」方向性が検討される等、本学部・研究科を取りまく情勢には厳しいものがあります。

### 3. 教育学部・教育学研究科の新たな取り組み

1) 教職大学院を改組し、「管理職養成コース」と「教育実践開発コース」を設置します。

教育学研究科教職実践開発専攻は、教育職の専門職大学院である「教職大学院」として、平成20年度に学校改善コース、授業開発コース、教育臨床実習コース、特別支援学校コースの4コース、学生定員20名でスタートしました。対象は、現職教員(岐阜県教育委員会からの派遣教員を含む)と学部新卒者(ストレートマスター)であり、専任教員としては研究者教員8名と実務家教員6名(特任教授3名)の計14名が配置されました。教職大学院は、修士論文を課していないこと、修了単位が46単位(本専攻では47単位)であること、研究者教員と実務家教員のTTによる指導体制等、修士課程とは異なる大学院であり、スクールリーダ養成を目的としたこれまでの8年間の実績は、外部評価機関による認証評価においても高い評価を受けてきました。

しかし、国立大学法人における教職大学院の設置が完了すること、教員の資質向上や養成・採用・研修に関する中教審答申が出されたこと等から、教職大学院における特色化が求められてきています。岐阜大学教職大学院は、これまでの実績を基にしつつ新たな特色化を目指して、これまで設置してきた4コースを平成29年度から「学校管理職養成コース」と「教育実践開発コース」の2コース(図1)に改組しました。学校管理職養成コースでは、岐阜県教育委員会との連携を深化させて、学校マネジメント力を修得し、学校管理職となり得る教員を養成します。教育実践開発コースでは、高度な教育実践力を修得し、ミドルリーダとなり得る教員と即戦力となる新人教員を養成します。

2) 教員養成のグローバル化へ対応していきます。

さて、小学校における教科「英語」の導入によりグ

ローバルな視点・資質をもった小学校教員の養成は喫緊の課題となっています。これまで、教育学部では、諸外国の教員養成系の大学との交流を強化する取り組みを進めており、タイ王国のシーナカリンウィロート大学(2015年3月)、ドイツのカールスルーエ教育大学(2015年10月)、中国の山西師範大学(2015年12月)との交流協定を締結しました。平成27年度の国際交流活動の実績は、これらの大学への留学(短期・長期)により、大幅に増加しています。また、平成28年度は、山西師範大学からの短期研修(2週間)として、24名の学生と4名のスタッフを受け入れました。5月8日～5月21日のスケジュールは、教育学部の授業見学、各講座に分散して学生と交流活動を行う等のグローバル化を体験する刺激的な活動に加えて、日本の学校教育の視察として、岐阜市立女子短期大学、岐阜市立岐阜商業高校では中国人観光客を想定した会話の授業を行ったり、岐阜市立岐阜特別支援学校、岐阜県立岐阜希望ヶ丘特別支援学校の訪問では、日本の特別支援教育の実際について意見交換することができました。また、附属小・中学校を訪問し、児童生徒との交流も行うことができました。飛騨研修でも、郡上八幡中学校、岩滝小学校、東山中学校、東小学校、白川小・中学校を訪問し、交流を深めることができました。教育学部の教員・学生が国際交流を体験するだけでなく、岐阜県内の学校を訪問し、多くの児童生徒との交流に繋げることができたことは喜びであります。岐阜県教育委員会等の関係者の皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。

写真は、大学で修了証を手にした山西師範大学の学生とスタッフ及び教育学部の国際交流委員長の吉松教授、リエゾンの中澤教授です。

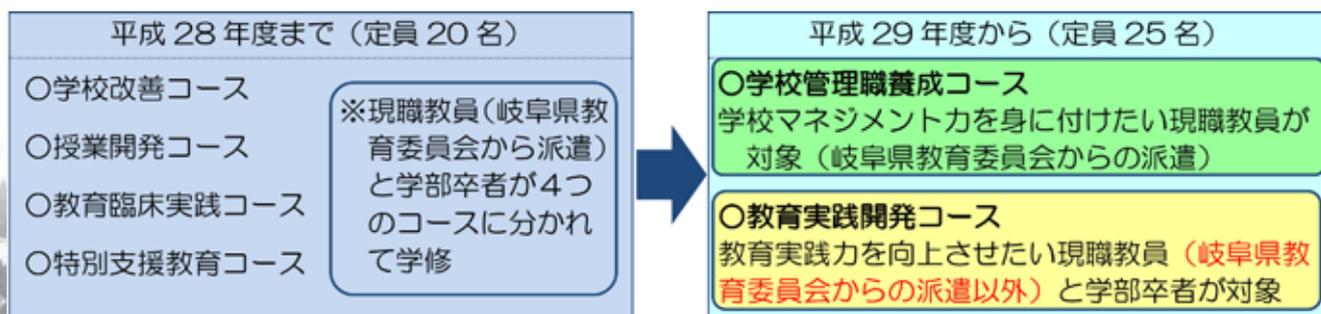


図1 教育学研究科教職実践開発専攻のコース編成

# 平成 28 年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

## ■ 会長

田口 和男 (S43 生物)

## ■ 副会長

田口 機子 (S40 体育)

浅野 佳正 (S46 数学)

吉田 政直 (S47 体育)

村瀬康一郎 (S53 数学)

## ■ 幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)

○ 後藤 信義 (S47 英語)

高木 敏彦 (S48 史学)

高橋 和子 (S49 美術)

菱川 洋介 (H16 数学)

組織部会 (担当副会長 浅野 佳正)

◎ 加藤 直樹 (S54 物理)

○ 高橋 雅裕 (S47 数学)

栗田 京 (S49 技術)

興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 吉田 政直)

◎ 黒田 隆吉 (S47 地学)

○ 山田 正昭 (S49 地学)

中島 康夫 (S50 史学)

加藤 弘和 (S50 数学)

矢嶋 英敏 (S51 英語)

子安喜久子 (S50 音楽)

広報部会 (担当副会長 田口 機子)

◎ 辻 泰秀 (S55 美術)

○ 高橋 忠明 (S48 技術)

杉山 真二 (S49 美術)

中村 敏朗 (S53 国語)

今井 亜湖 (H 8 技術)

## 監査

大塚 頼明 (S43 国語)

加藤 繁利 (S45 教育)

林 広司 (S48 化学)

## 評 議 員

大学系		
国文	藤根 隆	S62
	村山 邦博	S62
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
	吉田 雪絵	H8
史学	西村 覺良	S39
	友田 靖雄	S40
	丹羽 柳三	S42
	旭 健	S47
	高木 敏彦	S48
地理	小牧 壽	S45
	小林 直樹	S50
	豊島 博	S58
	堀江 秀樹	S58
	新井 恒雄	H6
法経	村井 俊之	S56
	横田 稔	S57
	清水 泰浩	H2
	丸山 靖生	H3
	古川 徹	H19
哲学	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	國定 幸敏	S53
	榎井奈津子	H 元
	奥村 直也	H5
数学	秋山 健	S36
	後藤 忠喜	S38
	宮脇 恭頭	S43
	中村 昌秀	S49
	熊崎 盛敏	S55
物理	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
	堀部 昇	S61
	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
化学	森 社	S51
	小柳 欣也	S51
	桐村 良昭	S53
	服部 公彦	S57
	酒井 茂	S61
生物	安藤 志郎	S43
	大野 伴和	S52
	井上 好章	S53
	渡辺 寛樹	H9
	細江 達三	H18

大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	山元 敏治	S45
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
	古田 靖志	S58
音楽	棚橋 弘	S48
	山田真紀子	S54
	羽土 聡	S58
	丸山 真姫	S59
	杉本 公彦	S61
美術	酒井 賢	S34
	長谷川 清	S37
	國枝 俊介	S44
	竹市 安彦	S49
	鬼頭 立城	S60
体育	中村 博巳	S39
	田口 機子	S40
	石子 裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
	谷端 良夫	S55
技職	伏屋 敬介	S45
	高橋 忠明	S48
	清水 茂樹	S58
	吉田 竹虎	S62
	淀川 雅夫	H7
家政	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	南川 明子	H8
	佐野 陽子	H11
	小林真理子	H12
英語	中村 美幸	S40
	後藤 信義	S47
	高橋 克	S50
	深尾 雅人	S57
	山下 敦子	S60
教育	安田 和夫	S53
	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53
	松井みどり	S54
	江崎 麻美	S61

師範系		
師範 男子	田口 謙介	S22
	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
師範 女子	高井 玉枝	S15
	大前 美子	S16
	田中 良泉	S17
	野中 和子	S20
	小倉三千子	S23
青年 師範	安藤 雅子	S24
	安田 嗣朗	S21
	石田 幸彦	S24
	今井 昌喜	S25
	服部 真六	S26
	乾 乃武子	S26

## 理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	西村 覺良	S39
地理	小牧 壽	S45
法経	山本 讓	S48
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	堀部 邦雄	S36
物理	鈴木 雅史	S50
化学	柘植 良雄	S50
生物	小椋 郁夫	S49
地学	岩田 將之	S48
音楽	棚橋 弘	S48
美術	石原 通男	S32
体育	高橋 茂徳	S41
技職	伏屋 敬介	S45
家政	野村 令子	S34
英語	古澤 哲男	S42
教育	堀井 恕直	S34

師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
女師	安藤 雅子	S24
青師	石田 幸彦	S24
	服部 真六	S26

平成 28 年 12 月 1 日現在

# 平成 28 年度 岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日 時 平成 28 年 6 月 4 日 (土) 13 時 00 分から  
 場 所 教育学部本館 7 階 第一会議室  
 出席者等 評議員・理事・役員 132 名 (内委任状出席 98 名)  
 会 議 議事については、議長として高橋忠明氏を選出し、以下の事項について審議した。



- ① 平成 27 年度事業報告  
 村瀬総務部会長、組織部会代理 (村瀬総務部会長)、黒田事業部会長、辻広報部会長から資料に基づき報告があった。
- ② 平成 27 年度決算報告  
 村瀬総務部会長から 27 年度の会計決算報告があった。
- ③ 会計監査報告  
 大塚頼明会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があった。
- ④ 事業報告及び決算の承認  
 審議の結果、報告の通り 27 年度事業と決算が承認された。
- ⑤ 次期同窓会長候補者推挙委員の選出  
 次期同窓会長選出について、会則に則り会長候補者推挙委員の選出を行うこととした。投票の結果として、高木敏彦氏、棚橋弘氏、國枝俊介氏、高橋忠明氏、後藤信義氏を選出した。
- ⑥ 平成 28 年度事業計画  
 村瀬総務部会長、組織部会代理 (村瀬総務部会長)、黒田事業部会長、辻広報部会長から各部の事業計画の提案があった。
- ⑦ 平成 28 年度予算審議  
 村瀬総務部会長から、28 年度予算についての提案があった。
- ⑧ 事業計画案及び予算案の承認  
 審議の結果、平成 28 年度の事業計画と予算を承認した。
- ⑨ その他

## 平成 27 年度教育学部同窓会決算報告

### ●一般会計

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	2,569,858
		同窓会費	7,260,000
		雑収入	562
		<b>合計</b>	<b>9,830,420</b>
＜支出の部＞		科目	決算金額
		<b>運営費</b>	<b>1,960,812</b>
		庶務費	1,421,610
		事務管理費	274,267
		役員会費	193,797
		通信費	20,800
		渉外費	16,072
		交通費	34,266
		<b>組織活動費</b>	<b>1,409,179</b>
		名簿管理費	956,735
		名簿作成助成費	30,000
		同窓会入会式費	422,444
		<b>学部援助費</b>	<b>90,000</b>
		事務援助費	0
		記念庭園管理費	0
		教育文化助成費	90,000
		<b>事業活動費</b>	<b>1,725,022</b>
		成果刊行費	821,232
		会議費	679,400
		事務費	224,390
		<b>広報活動費</b>	<b>2,240,458</b>
		印刷費	1,247,562
		通信費	992,896
		<b>次年度繰越金</b>	<b>2,404,949</b>
		<b>合計</b>	<b>9,830,420</b>

### ●事業活動基金

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	40,768,514
		利息	8,096
		<b>合計</b>	<b>40,776,610</b>
＜支出の部＞		科目	決算金額
		貸金庫料	8,640
		次年度繰越金	40,767,970
		<b>合計</b>	<b>40,776,610</b>

### ●教育実践事業基金

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	3,652,417
		利息	190
		寄付金	200,000
		<b>合計</b>	<b>3,852,607</b>
＜支出の部＞		科目	決算金額
		教育実践論文顕彰費	406,000
		次年度繰越金	3,446,607
		<b>合計</b>	<b>3,852,607</b>

平成 28 年 6 月 4 日評議会で承認済み。

# 平成 27 年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式	● 役員変更状況確認	● 第30集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	16 運営委員会		● 第30集発行 ● 第31集に係る教育研修課への依頼 26 第30集配布作業	
6	1 岐阜大学創立記念行事 4 理事会・評議会の開催		● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	4 第1回部会 (担当分担, 細部打合せ)
7			● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	8 拡大運営委員会	● 会費未納者再請求 ● 1年生IDパスワード配布		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など 26 第2回部会(編集会議)
11			● 審査依頼；都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長	● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2校)
12				● 同窓会報第21号発行・発送
1	8 拡大運営委員会		21 事業部会	
2			15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 教育学部同窓会入会式及び卒業生との懇親会		1 第二次審査会 15 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集-第31集-発刊手続き開始	

# 教員採用試験の 状況について

教育指導員 田口 和男

昭和43年度生物地学科(生物)卒業

教育指導員 高橋 和子

昭和51年度美術工芸学科卒業

## 一生懸命に生きる

私たちは、同じ小学校で教育実習を行った人を中心に学習会のグループを作りました。その仲間には、一次試験の面接練習だけでなく、二次試験の実技対策でも本当にお世話になりました。分からないことを聞いたり、出来ない実技について教えてもらったりして本当に助けられました。

教員採用試験の取り組みの中で思い出に残った出来事があります。それは、暑いある日の午後のことです。グループの全員が揃って、縄跳びやボール投げを練習をしていた時のことです。A君が、カマキリが他の昆虫を捕食している瞬間を見つけたのです。練習を中断し、全員でそのシーンを見つめました。私は初めての経験でした。Bさんの「子どもに見せたいよね。」という一言をきっかけに、みんなで、生きるということ、命を大切にすること、仲間を大切にすることなどについて話が弾みました。Cさんの、「カマキリも生きるために、一生懸命やね。尊い姿やね。」の一言を聞いて、教員になりたいと頑張る私たちの一生懸命さも尊いなと感じました。この出来事がこの夏の私の一番の思い出です。

私はこの一年、岐阜県の教員になりたいと考え、教員採用試験に向かう学部のみなさんと一丸になれたと思います。今まで話したことがなかった人ともたくさん話すようになりました。岐阜大学生はみんな仲間だと感じた教員採用試験でした。  
(K生)

## オール岐阜大学という考え方

教育学部の学部生、院生、卒業生の教員採用試験受験者数は表の通りである。

今年度も教育学部の同窓会、後援会の支援を頂き、岐阜県、愛知県にいる卒業生のために学習会を開催した。

(+aは他県受験の卒業生数)

	現役	院生	卒業生	総合計
小学校	102	9	66	177 + a
中学校	36	4	16	56 + a
高等学校	15	15	16	46 + a
特別支援学校	17	1	14	32 + a
幼稚園	1	0	0	1 + a
総合計	171	29	112	312 + a

※進路相談室把握分

## 見たことのない自分

私は十数年間逃げ続けていました。「私はマットは出来ません。苦手です。」「縄跳びもボール投げも苦手です。」「デッサンは笑われるようなものしか描けません。」このように逃げるといふか、逃げ続けていた私が「どうしても、教師になりたい。」という強い思いを持ったのは小学校の教育実習が終わった時です。

マット運動については、5月に山脇先生から課題を頂き、必死に練習を始めました。学習会の仲間も助けてくれましたが、先生の熱心なご指導のおかげで、この夏に今まで見たことのない自分を見ることが出来ました。倒立前転が出来るようになったのです。

デッサンも佐藤先生や院生の方のおかげで自信を持って描くことが出来るようになりました。

まだ、百パーセントとは言えませんが、倒立前転もボール投げも出来るようになりました。連続縄跳びは本番で25回できました。  
(O生)

## 小学校実技指導



## 中学校実技指導



## 私たちは幸せです

二次試験に残った人たちはみんな素敵な人ばかりでした。この人たちとこれから岐阜県の教員としてやっていくのだと思うとワクワクしてきました。

「私たちは本当に幸せやね。」「絶対に受からなければね。」と友達とよく話をします。教員採用試験に対して大学がこれだけ色々な対策の場を準備して下さるのですから、どうしても合格して恩返ししたいと思います。  
(Y生)

## 素敵な仲間



# 平成27年度教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 黒田 隆吉  
昭和47年度 地学科卒業

## 1. はじめに

昭和59年まで県内の市町村教育委員会毎に教育実践論文に関する事業が行われていましたが、昭和60年、岐阜大学が現在の岐阜市柳戸の地に統合移転したことを機に、岐阜大学教育学部同窓会が本事業を全県的に始め、平成27年度で31年目を迎えることができました。

本事業は、岐阜県教育委員会、市町村教育委員会の教育行政機関と岐阜県小中学校長会等の深い理解と絶大な協力が得られています。また、平成10年度からは当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金を頂いています。こうした様々な機関によって本事業が支えられてきています。

今、岐阜県が求めている教師像として、

- 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師
- 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師
- 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師が挙げられています。

これらの教師像を自ら具現しようとしている一つの姿が、この教育実践研究論文への取り組みではないでしょうか。教育実践研究論文は「人に読んでもらえる論文」を

書くことが目的です。しかし、読んでもらう前に、自分自身を見つめて書くのですから、求めている教師像に自ずと迫っているわけです。

多くのベテラン層が退職する中、これからの教育を進めていく人たちがさらにこの教育実践研究論文に取り組みれていくことに期待をもちます。これが、子どもの「学力向上」に大きく寄与することに間違いのないですから。

## 2. 応募状況と傾向

○応募の傾向

- ・応募者数1,320名。応募者率は教員全体の11%余となり、昨年度を上回りました。
- ・昨年度より20代、30代の教員で80%を超えています。この現状を踏まえ、平成27年度から新人賞入賞点数を4点増やし24点にしました。
- ・優良賞候補40点のうち、50代6名、60代1名とベテラン教員のすばらしい実践が見られました。
- ・優秀賞候補10点のうち、中学校からの論文が6点あり、中学校が落ち着いて実践に取り組むことができる環境が整ってきていることが感じられました。

<表1>平成27年度に応募状況：職種別、年代別、性別応募人数（総計1,273名）

校種	職種別										年代別						性別			
	校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	A・L・T等	小計	20代	30代	40代	50代	60代	小計	男性	女性	小計	
総計	小	9	7	1	719	27	6	5	26	0	800	452	169	111	63	5	800	341	459	800
	中	3	4	1	492	6	0	3	11	0	520	280	161	52	27	0	520	322	198	520
	計	12	11	2	1211	33	6	8	37	0	1320	732	330	163	90	5	1320	663	657	1320

<表2>平成27年度に応募状況：領域別応募論文数（小764編、中497編 総計1,261編）

校種	教科											教科以外											
	国語	社会	算数・数学	理科	生活	音楽	図・美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計	
総計	小	134	74	128	52	20	30	15	8	45	15	521	32	28	5	22	67	4	42	34	19	23	276
	中	54	50	72	47	0	14	18	22	15	85	377	12	15	5	4	26	1	18	5	7	7	100
	計	188	124	200	99	20	44	33	30	60	100	898	44	43	10	26	93	5	60	39	26	30	376

### 3. 審査会の報告

#### (1) 審査の経過

応募された論文は、市町村教育委員会における審査⇒各教育事務所における審査（第1次審査）⇒県教育委員会教育研修課における審査（第2次審査 H28.3.1）⇒最終審査会（H28.3.15）の過程を経て、最優秀賞、優秀賞、優良賞、新人賞が決定しました。

最終審査会の審査員は次の方々をお願いしました。

【審査員】学識経験者2名、教育研修課研修企画監、同課長補佐、各教育事務所長、各教育事務所教育支援課長、都市教育長会長、町村教育長会長、県小中校長会長、県小校長会長、県中校長会長

#### (2) 審査の観点

審査は次の5つの観点から厳正に行われました。

- ① 教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ② 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- ③ 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④ 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- ⑤ 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

#### (3) 最優秀賞の決定

上記の観点から10点の優秀賞が選ばれ、最終審査会の場で、さらにその中で最も優れた論文「最優秀賞」が次のように決定しました。

#### 垂井町立不破中学校

鈴木 佑実 教諭（英語）

##### ■論文テーマ■

コミュニケーション能力の基礎を確実に身に付け、積極的に自分の思いや考えを伝え合い、自己表現する喜びを実感できる生徒の育成

～思いや考えを引き出すための活動の工夫や指導援助を核として～

審査の中で、鈴木教諭の論文が優れている点として挙げられたことを列記します。今後の参考にして頂けたら幸いです。

- ・国や県の英語教育の動向や今日的な課題を適切に捉えた上で、指導の工夫に焦点を当てて取り組んだ実践である。2年間の実践を積み上げていったことで、検証の客観性が生まれ、説得力が増している。
- ・生徒に学ぶ必然性を意識させることで、コミュニケーションの楽しさを実感させる中で思考力・判断力・表現力の育成を図っている。
- ・単元目標や評価規準を十分に吟味し、単元全体を絶えず見通した中での単位時間の役割を明確にした指導計画の作成に取り組んでいる。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた帯活動や単元の終末に位置付けたパフォーマンステストの在り方の工夫など、他の英語教員にとって大いに参考となる。
- ・生徒の変容を的確に実証している。

### 4. おわりに

第二次審査会、最終審査会の中で、審査員から次のような意見・感想がありました。

- ・例年思うことだが、多忙な中で、実践論文の執筆に挑戦し、学び続ける教員の熱意に頭が下がる。こうしたすばらしい実践が、県内そして、全国へと広がり、活用されることを期待したい。そのためにも、研究目的と研究仮説、内容・方法の整合性を明確にして取り組み続けてほしい。
- ・「学習の必然が児童生徒にあるか」「一人一人が活かされているか」「児童生徒自身が自分の変容を実感しているか」を、論文の読む際の窓として考えていきたい。
- ・基礎的・基本的な力をどのように身に付けていくかについて、児童生徒自身にとって必然があるかどうかということが重要である。その必然があれば、おのずと学習が好きになる。
- ・その教科において今日的な課題となっている内容をテーマの中に盛り込むことで、研究実践の方向性や焦点化を図ることにつなげていきたい。
- ・論文作成に当たっての基本をきちんと踏まえていきたい（引用資料の出典の明記、個人情報などの扱い、正しい統計学的処理など）。



【二次審査会の様子】



【最終審査会の様子】



# 第31回（平成27年度）岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）		
垂井町立不破中	鈴木 佑実	コミュニケーション能力の基礎を確実に身に付け、積極的に自分の思いや考えを伝え合い、自己表現する喜びを実感できる生徒の育成 ～思いや考えを引き出すための活動の工夫や指導援助を核として～ <span style="float: right;">&lt; 英語 &gt;</span>

優秀賞（9編）		
各務原市立尾崎小	衣 斐 優	社会的事象の意味を主体的に追究し、社会とのつながりに気付く子が育つ社会科学習 <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
岐阜市立東長良中	車 戸 良成	思考力・判断力・表現力をはぐくみながら社会認識を獲得し、社会参画への意欲や態度を形成する社会科学習 <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
岐阜市立加納小	大 西 昭裕	主体的に読み、適切に表現する中で、考えを広げたり深めたりする国語科学習 ～「3つの見届け」と「入れ子構造」を取り入れた指導の工夫～ <span style="float: right;">&lt; 国語 &gt;</span>
池田町立池田中	水 野 幸弘	学習到達目標(CAN-DO リスト)を活用した逆向き設計の英語指導の工夫 <span style="float: right;">&lt; 英語 &gt;</span>
郡上市立大和中	武 藤 大輔	学びの質を高める理科指導のあり方 ～生徒の実態と求められる教育の両面からアプローチして～ <span style="float: right;">&lt; 理科 &gt;</span>
美濃加茂市立加茂野小	本 間 祐一	人物の生き方から学び、身の周りの社会生活を見つめる子の育成 <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
中津川市立坂本中	松 原 元樹	基礎的・基本的な学力を高める中学校社会科づくり ～論点整理「育成すべき資質・能力」の視点に沿った現状分析と授業改善の試みを通して～ <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
瑞浪市立日吉中	工 藤 陽子	よりよい解き方・考え方を追究する生徒 ～「分かった」を「できる」につなぐ言語活動の充実～ <span style="float: right;">&lt; 数学 &gt;</span>
高山市立宮小	松 尾 圭輔	進んで自分の考えを話せる子を育てる算数科指導の在り方 ～仲間との学び合いで進んで発言するために～ <span style="float: right;">&lt; 算数 &gt;</span>

優良賞（40編）		
岐阜市立長良中	柴 田 順次	アクティブ・ラーニングを通して、確かな学力を育成する ～相互作用と振り返りを意識した数学科の授業の実践～ <span style="float: right;">&lt; 数学 &gt;</span>
岐阜市立長良東小	田 原 幹也	動きの高まりを実感し 生き生きと運動に取り組む子 <span style="float: right;">&lt; 体育 &gt;</span>
岐阜市立長良東小	干 場 康平	読む能力が育つ国語科学習 ～文学的な文章の授業改善を通して～ <span style="float: right;">&lt; 国語 &gt;</span>
岐阜市立長良東小	小 野 寺 瞬	自らよりよい生き方を求めようとする子が育つ道徳教育 ～心の揺れ動きの中から、自己の内面を見つめようとする子が育つ道徳の時間の在り方～ <span style="float: right;">&lt; 道徳 &gt;</span>
羽島市立竹鼻小	柴 田 ますみ	自閉症・情緒障がい特別支援学級の役割 ～自己理解を深め、たくましくよりよく生きようとする姿を求めて～ ～A児の3年間の歩みを通して～ <span style="float: right;">&lt; 特別支援 &gt;</span>
羽島市立桑原中	水 野 久代	生徒も教師もともに自己肯定感もてる授業の創造 ～道徳を核にしたアクティブラーニングへの挑戦～ <span style="float: right;">&lt; 道徳 &gt;</span>
各務原市立稲羽西小	萩 本 恒久	一人一人の児童が「分かった」「できた」といえる授業づくり ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた体育科授業の指導と工夫～ <span style="float: right;">&lt; 体育 &gt;</span>
各務原市立那加第二小	坂 井 佳子	自分の生活を見つめ、主体的に健康な生活を送ることができる子の育成 ～5年間の継続的な取り組みを通して～ <span style="float: right;">&lt; 健康安全 &gt;</span>
山県市立伊自良南小	永 井 英樹	論理的に考える子を育てる国語科指導の工夫 ～「論理の習得と活用」を核にして～ <span style="float: right;">&lt; 国語 &gt;</span>
瑞穂市立西小	小 里 和香	主体的に健康な生活習慣をつくりだすことができる子の育成 <span style="float: right;">&lt; 健康安全 &gt;</span>
本巣市立糸貫中	荒 深 利奈	自分の考えを表現する楽しさを味わい、「読む力」を確実に身に付ける生徒の育成 ～外国語活動を踏まえた英語科授業・音読を通して～ <span style="float: right;">&lt; 英語 &gt;</span>
笠松町立松枝小	迫 間 里子	思いや意図をもち、豊かに表現できる子を目標として ～学校のじまん、歌声づくり。全校の歌唱指導の在り方～ パートⅢ <span style="float: right;">&lt; 音楽 &gt;</span>
北方町立北方小	後 藤 美紀	中学校との円滑な接続を図る小学校外国語活動の展開 ～望ましい文字指導の在り方～ <span style="float: right;">&lt; 外国語活動 &gt;</span>
大垣市立小野小	高 橋 純子	自然のすばらしさを実感しながら、科学的な見方や考え方を表現できる子の育成 ～「学んだから賢くなった！」を実感できる指導の在り方～ <span style="float: right;">&lt; 理科 &gt;</span>
大垣市立一之瀬小	香 田 健治	情報モラルの教育の推進に関する実践的研究 ～学校と家庭におけるルールづくりを通して～ <span style="float: right;">&lt; 情報教育 &gt;</span>
海津市立城南中	中 川 秀一	主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習 ～義務教育の仕上げである公民的分野の学習を通して～ <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
養老町立東部中	鈴 木 雅子	「わかった」「できた」と生徒一人一人が実感できる授業づくり ～ICT機器を活用した四技能の育成を目指して～ <span style="float: right;">&lt; 英語 &gt;</span>
垂井町立合原小	清 水 正和	社会的な見方・考え方を高め、地域社会への誇りと愛情を育む子の育成 ～3年生社会科の単元構造、学習活動、地図との出会いを大切に指導・援助を通して～ <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
神戸町立北小	井 上 大嗣	社会的な見方や考え方を育むための授業改善 ～ユニバーサルデザインの手法を取り入れて～ <span style="float: right;">&lt; 社会 &gt;</span>
神戸町立北小	楠 井 喜久子	「できた」「分かった」という喜びのある算数科の学習 ～ユニバーサルデザインをもとにした全校体制の在り方～ <span style="float: right;">&lt; 算数 &gt;</span>
大野町立揖東中	大 坪 明子	音楽を形づくる諸要素の特徴を感じ取りながら、「できた」を実感できる授業づくり <span style="float: right;">&lt; 音楽 &gt;</span>
関市立桜ヶ丘小	山 田 真樹	主体的に自己の力を発揮し、仲間の良さに気付き合える児童の育成 ～自立活動を通してA児の社会性の育成を目指して～ <span style="float: right;">&lt; 特別支援 &gt;</span>
関市立上之保小	松 田 香織	主体的に自分の命を守ることができる児童の育成 ～はじめての防災教育担当としての取組を通して～ <span style="float: right;">&lt; 健康安全 &gt;</span>
美濃市立美濃中	藤 田 智一	既習表現を駆使して、自ら意欲的にコミュニケーションに挑み続ける生徒の育成 <span style="float: right;">&lt; 英語 &gt;</span>

郡上市立那留小	横山 亜希	学習したことをもとに、自分の考えや思いが伝わるよう豊かに表現する児童の育成	<国語>
美濃加茂市立太田小	高原 美乃	生き生きと表現する子を目指した国語科指導 ～言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育てる国語科指導(読むこと領域)の工夫～	<国語>
坂祝町立坂祝小	渡邊 和代	坂祝小学校・学力向上の取組 ～授業改善・家庭学習の充実に向けて～	<校内研究>
御嵩町立御嵩小	大塚 由美	数学的な思考力・表現力を高める指導のあり方 習熟の程度に応じた指導方法の工夫改善 ～5年(チャレンジコース)の指導実践から～	<算数>
可児市立蘇南中	今井 慎也	主体的に社会の形成に参画する生徒の育成 ～「価値に関する認識」を形成する授業と「事実に関する認識」を獲得する授業の実践～	<社会>
多治見市立小泉小	江崎 紀子	自己肯定感をもち、豊かな心で自分の「思い」を表現する子を目指して ～道徳と音楽科との関連性を生かし、学級通信を核として保護者と共に子育てをする温かい学級経営の在り方～	<学級経営>
瑞浪市立瑞浪小	吉川 弥里	考える楽しさで算数好きな子をふやす授業作り ～授業のユニバーサルデザイン化～	<算数>
恵那市立大井小	西尾 克彦	児童の実態の把握と分析に基づいた指導方法の工夫 ～LD・ADHD等通級指導教室における実践～	<特別支援>
中津川市立田瀬小	工藤 史	算数的活動を楽しみ、数理的な処理のよさに気付く子の育成 ～算数的操作活動により、納得を生み出す～	<算数>
多治見市立北陵中	加知 昌彦	誰もが「できた」「わかった」「もっとできるようになりたい」を実感する授業作り ～ユニバーサルデザインの国語科学習のあり方～	<国語>
土岐市立西陵中	江崎 大三	自主的に考え、判断し、行動に移す生徒の育成	<学級経営>
恵那市立恵那西中	土屋 孝政	自ら主題に迫る鑑賞授業のあり方 ～構図の分析方法の習得を通して～	<美術>
高山市立北小	稲垣 洋志	社会的な見方や考え方を高め、学ぶ喜びを味わえる授業をめざして	<社会>
高山市立北小	松井 美穂	数学的な思考力・表現力を高め、技能を定着させる指導のあり方 ～誤答の理由を考える活動を通して～	<算数>
飛騨市立河合小	田中 博	みんな自然に親しみ、科学する楽しさを ～理科だより「河合の自然」を核にして～	<理科>
下呂市学校運営支援室 下呂市小中学校事務職員研究会	荒井 基夫 今井 鉄也	子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務をめざして ～「下呂市立小中学校事務共同実施」によって子どもの学びにかかわる人々と連携・協働して、学校の教育目標の具現を図る～	<管理経営>

新人賞 (24編)			
岐阜市立長良東小	小谷 公也	数学的な表現力を高める学習活動	<算数>
羽島市立桑原小	水谷 麻美	どの子にも確かな学力をつける算数科指導 ～「数直線図の理解と活用」に重点を置いた「割合」の実践を通して～	<算数>
各務原市立川島中	永井 隆史	コミュニケーション能力の素地・基礎を支える英文法指導を求めて ～生徒が「わかる・できる」喜びを感じることができ英語教育の在り方～	<外国語活動>
山県市立美山中	佐藤 悠	事実にもとづく思考の高まりをめざして ～動物の生活と生物の変遷の単元を通して～	<理科>
瑞穂市立牛牧小	大西 淳也	科学的な見方や考え方を養うための学習過程や学習方法の工夫 ～単位時間のつながりを大切に、ICTを活用した授業実践～	<理科>
本巣市立真桑小	佐伯 康輔	「学級」という共同体の中で、自己肯定感を育む学級活動 ～よさに気づき、認め合い、誰もが生き生きと過ごせる学級を目指して～	<特別活動>
笠松町立笠松小	高濱 梨沙	一人一人が所属感を得られる学級集団を目指して ～道徳の授業、児童会の取組を生かして～	<道徳>
北方町立北方南小	丸藻 愛	互いを認め合い、自らが主体となって動く喜びを感じることができ特別活動のあり方 ～異年齢集団による活動を通して～	<特別活動>
大垣市立東小	渡辺 脩哉 ラファエル	学びの喜びを味わうことができる授業の創造 ～単元指導計画の創意工夫と小学校中学年における自己の資容に気付くための指導を通して～	<算数>
大垣市立東小	井藤 綾子	安心できる学級にむけて ～小学校低学年における集団へのアプローチ～	<特別活動>
養老町立養老小	村瀬 杏奈	表現することの楽しさが実感できる小学校入門期における外国語活動	<外国語活動>
関ヶ原町立今須小	山口 公雄	自主的に社会的事象を追究していくことができる児童の育成	<社会>
関市立桜ヶ丘小	日比野 佑希	思いや願いをもち、仲間との交流活動を通して、気付きの質を高める生活科の学習の在り方	<生活科>
関市立中有知小	林 佑香	仲間と共に認め励まし合い、主体的に活動することのできる指導のあり方	<学級経営>
可児市立旭小	野口 洋憲	よりよい人間関係を築くことができる学級集団の育成 ～グループアプローチを生かして～	<学級経営>
八百津町立和知小	佐伯 綾乃	豊かな言語活動をめざして、根拠に基づいた確かな読みを深め合う子の育成	<国語>
美濃加茂市立西中	山崎 雅	自分の考えを豊かに表現できる生徒の育成 ～「批評を書く」活動を通して、仲間との関わり合いから自分の考えを深める学習活動の探究～	<国語>
多治見市立精華小	伊藤 瞳	自ら「高まり」、仲間と「高め合う」子の育成を目指した国語科学習	<国語>
土岐市立土岐津小	福島 良太	どの子にとっても「わかった」「できた」「おもしろい」と実感できる理科授業の在り方 ～児童理解に基づいた指導・援助の工夫改善～	<理科>
中津川市立田瀬小	蒲 希世子	望ましい食習慣を身に付け、バランスのよい食事を摂取できる子の育成	<健康安全>
瑞浪市立瑞浪中	岩田 和馬	自然の事物や現象を分析して解釈し、表現する力を育てる理科指導	<理科>
恵那市立明智中	伊藤 邦治	自ら科学的な見方や考え方を高める生徒の育成Ⅱ ～小集団交流を核とした、仲間と共に学び合う授業を目指して～	<理科>
高山市立南小	菅井 詩織	運動の楽しさを感じ、基礎的な動きを身につける体育授業の実践 ～ボール投げゲームの実践より～	<体育>
高山市立北小	長瀬 優作	科学的に考える楽しさを味わい、「理科が好き」と感じることでできる理科学習の創造 ～単元指導計画の充実、教材教具の工夫、授業展開の工夫を通して～	<理科>

# 活躍する同窓生

瑞穂市教育委員会学校教育課長 村山 邦博

昭和62年度 国語国文学科 卒業



## 今のお仕事について教えてください。

本年度4月から瑞穂市教育委員会学校教育課に勤務しています。瑞穂市には、小学校7校、中学校3校、市立幼稚園1園があります。「心豊かに光り輝く『みずほ』の子ども」の育成を目指しています。瑞穂市立牛牧小学校から瑞穂市教育委員会へ異動し、学校から離れることになり正直言って少し寂しい気持ちもありますが、自分の仕事が瑞穂市の子どもたちや先生方の幸せにつながるようがんばっています。

## 教師になられてから大切にされたことを教えてください。

初任校の先輩の教え、「一日の終わりに目を閉じて振り返るとよい、今日一日、生徒に真に誠実であったかを」という言葉がずっと心に残っています。言うまでもなく、教育は、単に知識を伝えるだけでは終わりません。一人の人間の人格の形成に大きく関わる仕事です。そこに携わる者は、自分の未熟さを自覚し、謙虚であることが大切だと思います。自分自身が力をつけることは大切。力の足りない分は、せめて、精一杯誠実でありたいと、今も考えています。

もう一つ、心身の健康にも気を付けてきました。睡眠を削って仕事をしなければならぬ時期もありましたが、ONとOFFの切り替えを大切に、健康な状態でいられるように心がけてきました。



## 岐阜大学で学ばれたことが今に生きていますか。

教壇に立った時の指導法などを学んだ記憶はありません。「そんなことは、教員になってから、先輩の先生から学べ」「自分が学ぶ喜びを知らずして、どうして子どもに学ぶ喜びを語れるか」という考えを、当時の大学の先生方は持っておられました。文学の講座で、漱石

の『草枕』をテキストに、「不人情」と「非人情」について議論したことを覚えています。振り返ればそれが後の教材研究につながっていると思います。学ぶことに対する姿勢や学ぶ喜び、課題に対するアプローチの方法など、大学で学んだことは確かに、その後の自分を支えてくれています。

また、学んだことは少し違いますが、大学時代の仲間との存在も、私を支えてくれます。就職して離れ離れになり、長い時間会わないでいても、再会した時にはすぐにかつての関係に戻ります。現在の私も、先輩、後輩を含めた様々な立場の当時の仲間と仕事上のお付き合いがあります。もちろん、公私の区別は大切ですが、心が知れた仲間と仕事ができるのはうれしいものです。



## 後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

時間があるうちに、無くても時間を作ってたくさんの本を読んでください。教師は常に学び続けなければならないと思います。自分の専門教科についての書物はもちろん、小説やノンフィクションも含め様々なジャンルの本を読んでください。それが、人としての幅の広さや奥深さを作ってくれますし、やがて出会う数多くの児童生徒の多様なニーズに応えるポケットを作ってくれます。

つらいことや苦しいことはたくさんありますが、でも感動はそれ以上です。教育は自分の一生を懸けるに値するすばらしい職業です。私もまだまだ現役の教師ですので、共に岐阜県の将来を担う子どもを育てましよう。



# 新人先生奮闘記

下呂市立萩原小学校教諭 村田 正志

平成 24 年度 生涯教育課程 卒業



## 担任として子どもたちに最初に話したことは。

学級開きで子どもたちに2つのことを話しました。

1つ目は、自分の一番得意なことです。私は、中学校から現在まで卓球を続けているので、「先生はこんなことができるんだぞ」と特技を披露しました。ここで子どもたちから「おお〜」という反応があり、距離が縮まったような気がしました。

2つ目は、担任としての願いです。「先生は、みんなが楽しいと思える学級にしたい。だから、人をバカにしたり、みんなで決めたことを平気で破ったりしたらすぐ怒る。笑顔いっぱい教室にしよう。」と自分の学級経営の方針と願いを話しました。時々その願いに立ち戻って、子どもたちに話をしています。

## 勤務で楽しかったことは何ですか。

楽しいと感じることはたくさんありますが、子どもたちが楽しいと感じることは私も楽しいと感じます。宿泊研修や遠足は、自分も楽しみながら引率しています。子どもとの何気ないやりとりや他愛のない会話をしている時も楽しいです。

職員室での会話もとても楽しいです。内容は様々で、今日の授業の様子や、先生方のお子さんの話、近くの美味しいお店の情報や、「彼女いるの？彼女いないの？」といった話もします(笑)。また、自分の指導がうまくいかないときには、真剣にアドバイスをしてくださります。どの先生も親身に相談に乗っていただけてありがたいと思います。



## 教員として最も必要な力は何でしょうか。

私は、「子どもの目線に立って物事を考えられる力」だと思います。「子どもにとっては分かりにくいかな。分かりやすく、分かりやすく」と考えて教材を作ったり、話をしたりするようにしています。しかし、話が長くなってあきてしまったり、指示がわからないような顔をしていたりすると「あ、しまったな…」と反省します。

「自分が子どもだったら」という目線で考えることが大切だと私は思います。



## 夏休み等の長期休暇はどのようなことをしていますか。

夏休みは比較的自分の時間が取れるので、旅行に行ったり、大学時代の友達と会ったりしています。中には、海外旅行に行かれる先生もおられます。

中学から続けている卓球もしています。地域のクラブチームに所属して、試合にも参加してします。その他にも、夏にはバイクに乗ってツーリングに行ったり、冬にはスノーボードをしに山に行ったりしています。

しかし、子どもが休みなだけで職員には勤務があるので、夏休みの間に2学期の準備をしたり、運動会の準備をしたりもしています。それでも、学期中に比べると夏休みや冬休みにはゆとりがあるので、毎年夏休みが待ち遠しいです(笑)。

## 後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

教員という仕事は、多忙で大変な面もあります。また、勤務が始まればベテランも若手も関係なく、子どもから見れば同じ「先生」となります。責任も大きいのですが、その分やりがいもあると思います。

在学中はいろいろなことを考えるかもしれませんが、私は先のことよりも、在学中にしたいことを精一杯するとよいと思います。勉強でもスポーツでも自分の趣味でも、精一杯取り組んでください。皆様の活躍を期待しています。

# 岐阜大学大学院教育学研究科は 学び続けたい先生を応援します

～教職大学院と総合教科教育専攻カリキュラム開発コースのご紹介～

今井 亜湖

平成8年度 技術職業学科卒

岐阜大学大学院教育学研究科では、学び続けたい教師が大学院で学べるように工夫されているコースが設置されています。今回は、平成29年度より新たに生まれ変わる「教職実践開発専攻(教職大学院)」と、県内外で働く現職教員が多く修了している総合教科教育専攻の「カリキュラム開発コース」を紹介します。

## ◎学校や地域のニーズに応えるために新しく生まれ変わる教職大学院

教職大学院は改組を行い、平成29年度より「学校管理職養成コース」と「教育実践開発コース」の2コース体制で、学校現場の実践や開発に即戦力として貢献する高度な教育専門職を養成していきます。

全国初となる学校管理職養成コースでは、学校マネジメント力を身に付けたい現職教員を対象に、自律的・協働的な学校運営を推進するための学校ビジョン構想や学校経営計画の作成、学校評価、危機管理計画の作成等を学ぶ講義と、岐阜県教育委員会や連携協力校と連携しながら学校や行政機関での実習を通して、管理職に必要な「マネジメント力」の養成を行います。

		M 1		M 2	
		前期	後期	前期	後期
			デザイン 発表	中間 発表	開発実践 報告会
学校管理職養成コース	必修/選択講義	講義	講義	講義	講義
	臨床実習	教育 行政	学校経営実習Ⅰ	学校経営実習Ⅱ	
	開発実習報告	理論・ゼミ		学校(勤務校)での開発実践 ゼミ(金)	
現職教員	必修/選択講義	講義(夜間)   集中 講義	講義(夜間)	講義(夜間)   集中 講義	
	臨床実習	基礎実習		学校教育臨床実習	
	開発実習報告	理論・ゼミ		学校(勤務校)での開発実践 ゼミ	
学部卒業生	必修/選択講義	講義	講義	講義	講義
	臨床実習	基礎実習		学校教育臨床実習	
	開発実習報告	理論・ゼミ		学校での開発実践 ゼミ	

図1 教職大学院のコース別履修スケジュール



教育実践開発コースは、教育実践力を向上させたい現職教員と学部卒業者を対象に、現職教員に対しては、授業開発や教育課程の改善、教育臨床問題、特別支援教育に関する最新の教育情報を学ぶ講義と、臨床実習を通して高度な課題解決力を身につけた、学校の中堅、ひいては地域の中核となるミドルリーダーを養成します。学部卒業者に対しては、学部段階の教職能力の上に、より高度な実践的能力を身につけた、学校で活躍できる新人教員を養成します。

どちらのコースも1年目は大学で理論を学び、2年目は学校で課題を探究し、その成果を「開発実践報告」としてまとめます。コースで定められた単位の取得と開発実践報告の提出により、両コースともに修了時には「教職修士」の学位が授与されるとともに、大学院入学時に持っていた1種免許状が専修免許状に更新されます。

この2年間の学修モデルを図示したものが、図1になります。

図1を見ていただくと、教職実践開発コースは夜間に講義が開講されるため、昼間は学校で勤務しながら、勤務時間外に大学院で学ぶことができるカリキュラムとなっており、働きながら学ぶことができます。

## ◎自分の専門性を高めるための研究に取り組むための大学院：カリキュラム開発コース

総合教科教育専攻カリキュラム開発コースでは、自宅からインターネットに接続して大学で開講される夜間の講義を受講できる遠隔教育、土日及び勤務校の長期休暇中を利用した集中講義にて大学院修了及び専修免許状取得に必要な単位を取得でき、修士研究の指導もeラーニングシステムを使うことにより、大学において研究指導が受けられない場合には自宅からインターネットを介して受けることができます。

これにより、岐阜県内外の働きながら学びたい現職の教員が多数入学し、自分の専門性を高めるための教育実践研究に取り組まれ、修士課程を修了されています。

図2がカリキュラム開発コースの2年間の履修スケジュールになります。

図2を見ていただくと、遠隔地で講義を受講している学生が他の学生と交流する機会を作るために、年に2回の対面による集中講義を実施しています。また、修士研究を2年間でまとめられるように、定期的に修士研究の発表会を実施しています。発表会にはカリキュラム開発コースに所属する教員と学生が一堂に会し、それぞれの進捗状況を確認し、研究助言を行

		M 1		M 2	
		前期	後期	前期	後期
講義	夜間	水6限 水7限 + $\alpha$	水6限 水7限 + $\alpha$	金6限 金7限 + $\alpha$	
	集中	土日遠隔 8月対面	土日遠隔 2月対面	土日遠隔 8月対面	2月対面
修士研究		4月指導教員決定 8月構想発表会	12月中間発表会	5月中間発表会 8月中間発表会	1月修士論文提出 口述試験
ゼミ					

$\alpha$ ：専修免許状に更新するための講義

図2 カリキュラム開発コースの履修スケジュール



う場となっています。

このように、カリキュラム開発コースでは、現職の教員が働きながら教育実践研究に取り組むことができるように様々な工夫がなされ、これまでに本コースを修了した現職の教員はおよそ80名に達しています。

<表1 現職教員の受け入れを積極的に行っているコースの比較>

	学校管理職養成コース	教育実践開発コース	カリキュラム開発コース
講義の受講時間	昼間	昼間・夜間・集中講義	夜間・集中講義
講義の受講場所	大学		大学もしくは自宅等でeラーニングにて受講
修了要件	所定の46単位取得(開発実践研究を含む)		所定の30単位取得と、修士論文提出と口述試験の合格
専修免許状の取得	可能		可能 <sup>[注1]</sup>
学位	教職修士(専門職)		修士(教育学)
入試	10月初旬		10月初旬と2月初旬

[注1] 専修免許状を取得するためには、修了に必要な最低取得単位数以外の単位を取得する必要があります。

### カリキュラム開発コースにて取得できる専修免許状

小学校教諭専修免許状, 中学校教諭免許状(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 保健, 技術, 家庭, 職業, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教), 高等学校教諭専修免許状(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 保健, 看護, 家庭, 農業, 工業, 商業, 水産, 商船, 職業指導, 英語, ドイツ語, フランス語, 宗教, 情報, 福祉), 幼稚園教諭専修免許状, 養護教諭専修免許状, 栄養教諭専修免許状

## 平成29年度大学院入試2次学生募集のおしらせ

教職実践開発専攻学校管理職養成コース及び総合教科教育専攻カリキュラム開発コース、サイエンスコース(サイエンスコースは昼間のみ)では、下記の要領で第2次学生募集を行います。大学院にて日頃の教育課題を探究したい、もしくは日頃の教育実践を論文としてまとめたいと考えていらっしゃる方は是非受験をご検討ください。

出願期間 平成29年1月4日(水)～1月6日(金)  
 試験日 平成29年2月4日(土)  
 合格発表 平成29年2月20日(月)午前10時

# 岐阜大学教育学部の ルーツを探る 2

～岐阜県師範学校にみる教員養成～

今井 亜湖

平成8年度 技術職業学科卒

岐阜大学教育学部の起源は、明治6年12月に大垣藩庁跡を校舎にして開設された「師範研習学校」であることを、同窓会報 No.20 でお伝えしました。

この師範研習学校は、明治8年2月に「岐阜県師範学校」と校名が変わります。そして、明治10年5月には安八郡大垣町から厚見郡今泉村、現在の岐阜市司町の県庁に近接する場所に新築移転します。

移転時は年度途中であったため、修業年限は1年となりましたが、翌年の明治11年度からは修業年限は2年となりました。当時の師範学校本科生は卒業に際して試験を受けなければならず、この試験で優秀な成績をおさめた場合には「第一等証書」が授与され、そうでない場合には「第二等証書」が授与されたとのことです。卒業時の試験の内容がとても気になります。

岐阜県師範学校ではどのような教員養成が行われていたのでしょうか。

岐阜県師範学校では、独自の教科中心的教育課程を定めて、教員養成を進めていきました。こうした教科の専門教育が行われていたことは、岐阜大学教育学部郷土博物館に所蔵されている授業風景の写真でも確認することができます。

また、師範研習学校時代から行っていた実地授業（いわゆる教育実習）を今泉村に移転しても実施できるように、明治10年7月には小熊小学校と今泉小学校を「岐阜県師範学校附属学校」とし、附属学校において実地指導が行うことができる体制を整えました。

以上のような岐阜県師範学校で行われていた教員養成の方法は、現在の岐阜大学教育学部にもしっかりと受け継がれています。岐阜県師範学校にて採用されていた教科中心的教育課程は、学校教員養成課程のカリキュラムに見ることができますし、附属学校を指定して実地指導を行う方法については学部3年生が行う「教職プラクティス」（教育実習）にて今日まで継承されています。



【師範学校 理科授業風景（岐阜大学教育学部郷土博物館蔵）】



【女子師範学校 昭和9年実習風景（岐阜大学教育学部同窓会蔵）】

# 退職された教員のみなさんからの挨拶

## 朝田 健 先生

岐阜大学教育学部教授・音楽教育講座

岐阜大学教育学部同窓生のみなさまへ

教育学部同窓会のみなさま、平成27年3月31日付で退職しました音楽教育講座の朝田健です。

同窓会の皆様には着任以来大変お世話になりました。特に音楽教育講座では三年に一度100名を超す同窓生と教員OB、現役教員が一堂に会して開かれる同窓会で、お会いしてお話ができること、岐阜大学に勤めてよかったなあと思っていました。右も左もわからぬ新米のころから、現場に出かけた折、同窓会で知り合った皆さんから声をかけていただきとても力強く感じておりました。

教育学部同窓会では平成26年に開催されました140周年を祝う記念行事に講座学生とともに演奏する機会を作っていただきました。研究室の学生にピアノを担当してもらい三重奏曲を夫婦でクラリネットを吹く機会も得ました。会場の温かい拍手に包まれたことは岐阜大学の大切な思い出になりました。



様々な事業を通して教育学部を、学生を見守ってくださる岐阜大学教育学部同窓会がますますの発展されますよう心よりお祈り申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。



## 佐藤 節子 先生

岐阜大学教育学部教授・理科教育講座(化学)

岐阜大学教育学部同窓生のみなさま

私は、昭和62年4月から29年間教育学部理科教育講座に在籍しました。初めは理科教育講座化学科の専門科目である実験や講義が主で、接するのも理科の学生だけでした。その後、共通教育の講義や、教育学部の教職科目である理科教育法や理科、生活科教育法、生活の講義を一部担当し、他学部や教育学部の他講座の学生の皆さんにも接するようになりました。理科教育法では情けないことに当初、自分の話したいことだけを話していました。回を重ねて次第に、理科はあまり好きではないという学生の皆さんに、小学校理科に携わる上で、心得ておいてほしい最小限の化学分野の内容を選び、わかりやすいようにと工夫していきました。そのような講義でしたが、その前に遅刻者が多く、講義を聞いてもらえないことが残念でした。しかし、しっかり講義に参加してくれた学生の皆さんからは、いろいろな反応や意見をもらえて励みになりました。生活の講義では、教育学部同窓会が教育実践研究助成事業として発刊している教育実践研究入賞論文集に最優秀論文として掲載された生活科学習についての論文も、資料として活用させていただきました。この論文以外にもこの論文集の論文に目を通すたびに、この助成事業が教員になった皆さんをどんなにか鼓舞し、また育てていることかと思われました。それを続けておられる同窓会の皆様に心から敬意を表します。

大学の講義で私がどれだけのことを皆様に伝えたのか、甚だ心もとないところですが、ここを巣立っていかれた皆様は、すでにしっかり自分の力で道を切り開いておいでです。そのような皆様の今後を、退職したこれからも楽しみにしてまいります。どうぞ皆様お元気で。



# 野元 世紀 先生

岐阜大学教育学部教授・社会科教育講座(地理学)

## 34年前の講義

この春定年を迎えた。岐阜大学在職34年である。この34年間で最も印象に残る思い出は初年度の講義であろう。前任者の高橋百之先生の講義を引き継いだ。新たに「環境地理学」という名称の講義を開講した。状況が判らず後期水曜の2限に設定したが、どうやら教職の必修科目などの関係で受講しづらい時間帯であったようである。結局、受講者は数学科と理科の生物の学生計5名であった。しばらくすると驚いたことに、自分たちも発表したいと学生が言い出した。そこで以後ゼミ形式の講義にした。

R.トムのカタストロフィーの理論の紹介と地球環境問題への理論の応用、長良川の生態系について、および河口堰建設による影響予測など、学生の熱い発表が続いた。その発表に私も興奮し、ときに大学近くの喫茶店フレンドに会場を移し、ゼミを続けたこともあった(注：当時教育学部は長良にあった。さらに蛇足ながらフレンドは今も営業を続けている)。

翌年からは学生が受講しやすい曜日に変更した。確かに受講生は増えたが、残念ながら定年に至る現在まで、初年度の講義の再現は叶わなかった。特別な学生たちだったのであるうか。すでに彼らも50代半ばになっているはずである。皆元気であろうか。一度フレンドで同窓会を開きたいと思っている。



## 退職・着任教員のご紹介

### 退職された教員

平成27年3月31日をもって、退職された教員は次のとおりです。

野元 世紀	教授	社会科教育(地理)
朝田 健	教授	音楽教育
佐藤 節子	教授	理科教育(化学)
三尾 寛次	教授	教職実践開発専攻
川上 紳一	教授	理科教育(地学)
石井 仁	准教授	家政教育

(50音順)

### 新しく着任された教員

平成27年度着任された教員は次の通りです。

足立 慎一	特任教授	教職実践開発専攻
栗田 京	特任教授	教職実践開発専攻
鈴木 祥隆	助教	特別支援教育
竹市 安彦	特任教授	教職実践開発専攻
棚野 勝文	教授	教職実践開発専攻
原田 峻平	助教	社会科教育(現代社会)
松浦 光男	准教授	音楽教育
森本 真紀	准教授	理科教育(地学)

(50音順)

# 各学科同窓

## 数学 (事務局 山県市立高富中学校 大石 章生)

### (1) 総会

隔年の開催となっており、本年度は開催なし。  
平成29年5月に開催を計画している。

### (2) 夏季研究会

総会が行われない年度に夏季研究会を行っているが、本年度は第98回全国算数・数学教育研究(岐阜)大会(平成28年8月1日～5日)が行われたため、開催なし。

### (3) 本年度の活動計画

#### ○同窓会名簿「わしょう」の改訂

本年度は、同窓会名簿の発行の年度ではないが、年度代表者に連絡をとり、毎年の確認作業を行った。

#### ○数学科卒業予定者に対するの説明会

数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(平成29年2月予定)

#### ○来年度以降の計画立案

運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。(平成29年3月予定)

### (4) その他

#### ○同窓会「わしょう」の作成に関わって

住所変更がある場合は、各年度の代表者に連絡をお願いします。

#### ○平成29年5月に29・30年度総会を予定しております。

ぜひ多くの会員様にご参会いただきますようお願いいたします。

事務局より原稿依頼を行い、原稿

## 国語 (事務局 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎)

学科として定期的な活動を行っておらず、関係の皆様にはご迷惑をおかけしております。

事務局として、同窓会名簿作成の業務を進めていきます。今後ともよろしくお願い致します。

## 物理 (事務局 郡上市立大中小学校 奥田 好紀)

学科として、定期的な活動は行っていません。

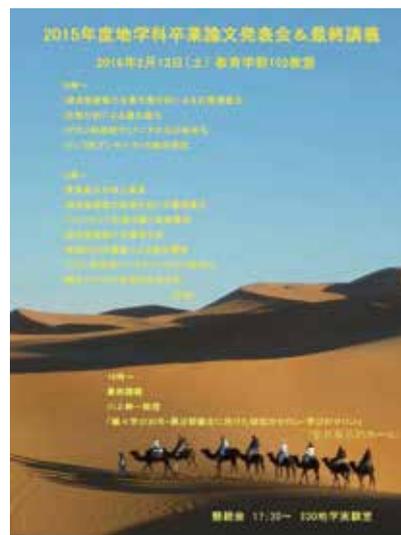
各学年の情報や同窓会名簿の修正について事務局までお知らせいただくとありがたいです。よろしくお願い致します。

## 地学 (事務局 岐阜市立長良中学校 武藤 正典)

### (1) 「卒業論文・修士論文発表会」への参加

### (2) 川上紳一教授 最終講義

「縞文学の30年～異分野融合に向けた研究のサロン・学びのサロン～」  
\*川上先生は、岐阜聖徳学園大学へ転任されました。



### (3) 「地学年末研修会」の開催

【期日】平成27年12月29日(火)

【会場】石金

【内容】実践交流会, 研究会, 懇親会など



\*毎年、12月29日に開催しています。参加していただける方は、事務局まで連絡をお願いします。

## 地理 (事務局 海津市立海西小学校 坂口 亨)

### 第42回 岐阜大学教育学部地理学科同窓会

#### 「濃飛の集い」報告書

#### 1, 第42回同窓会「濃飛の集い」

第48回生(代表 小椋 徹二)が担当

【期日】平成28年8月6日(土) 13時～16時半

【会場】関ヶ原中央公民館及び関ヶ原町・玉の火薬庫巡検

### (1) 総会

・開会あいさつ／・実行委員(48回生)あいさつ／・恩師の先生方のお話／・参加者の紹介／・諸連絡／・閉会あいさつ

### (2) 講演

演題 「関ヶ原と玉の火薬庫について」

講師 関ヶ原町玉地区区長／北部集落センター長 岩津 隆之氏

関ヶ原は壬申の乱、関ヶ原合戦と天下分け目の戦いが行われた地として有名である。あまり知られていないが東洋一と言われた旧日本陸軍の火薬庫があった地であり、今も現存している。建設に従事したのは大半が地元玉地区と一部関ヶ原地区の住民であり、この地に火薬庫があるという情報は守られてきた。

ここに火薬庫が作られたのは、交通の便がよく、点在する小高い丘は洞窟を築く上で都合がよいなど立地条件に恵まれていたからである。歴史上の大戦の遺産を多く残す関ヶ原を、後世に平和を唱える平和遺産の町としたい。

巡検では、実際に火薬庫を見学させていただいたため当時の建築技術の高さや今まで知らなかった歴史を学ぶことができた。



### 2, 次回活動予定 平成29年8月6日(土)

第49回生(代表 篠田)が担当

# 同窓会の活動

が届いた学科のみ掲載しています。

## 音楽 (事務局 郡上市教育委員会 学校教育課 羽土 聡)

### (1) 同窓会入会説明会

- ・2月24日, 羽土理事長が音楽棟で, 同窓会について卒業生11名に説明しました。卒業生の皆さんは大変礼儀正しく, 和やかな雰囲気での会が進みました。

### (2) 卒業・修了記念コンサート応援

- ・3月6日, 事務局3人が, サラマンカホールで実施したコンサートのリハーサルに伺いました。同窓会からステージ両サイドを彩る花を贈呈しました。

### (3) 会報「間」編集委員と事務局会

- ・4月30日, 事務局と編集委員が, 11月に実施する総会・懇親会と秋に発行する会報の内容について検討しました。

### (4) 理事会, 朝田 健 教授退職記念講話&コンサート

- ・6月11日, 理事会で本部役員の改選や事業報告等を行いました。
- ・理事会に引き続き, 朝田 健 教授の退職記念講話&コンサートを実施しました。一緒に勤務された先生方の楽しいエピソードや音楽の専門的なお話の後, 21年度卒業 須藤 結紀 さんの伴奏で, ブラーム作曲クラリネットソナタ第1番など3曲を演奏されました。夜は長良川河畔で懇親会。鶉飼の篝火が幽玄の世界を映し出す中, 懐かしい思い出話に花が咲きました。



### (5) 第17回総会・懇親会

- ・11月20日, ホテルグランヴェール岐山で, 恩師をお迎えし総会・懇親会を実施しました。詳しくは, 来年度の会報でご報告します。

## 美術 (事務局 岐阜市立青山中学校 小野 由加里)

### (1) 造形教育の全国大会の成果を受けて

県下の図工・美術教師として多くの同窓会員が活躍しております。平成27年度11月に開催された全国造形教育連盟と日本教育美術連盟の合同の全国大会(岐阜大会)の成果を受けて, 充実した実践を積み重ね研究が深まることを願っています。

### (2) 美術工芸学科同窓会ブログ「ぎふ美術の風」

平成22年度に開設し6年目に入りますが, 主に各地で活躍する同窓会のグループ展・個展・公募展への出品及び会員の紀行文等を紹介しています。昨年度11月に開催された全国造形教育連盟と日本教育美術連盟の合同の全国大会(岐阜大会)では, 全国からの参加者に情報を発信しました。同窓会員の交流の場としてさらに充実したものと願っています。

- ・ブログアドレス <http://gibido.blog.134.fc2.com/>
- ・ブログタイトル 「ぎふ美術の風」

### (3) 卒展・在校生展のお知らせ

平成28年2月16日(火)~21日(日)に岐阜県美術館において平成27年度卒業生(64期生)による卒業制作展が開催されました。大学院の修了作品展, 在校生作品展も同時に開催し盛況を博しました。本年度は平成29年2月21日(火)~26日(日)に岐阜県美術館にて開催されます。現在の美術教育講座の様子を知る機会です。ぜひ足をお運びください。

## 家政 (事務局 吉田 麻子)

### 1 平成28年度の活動

#### (1) 会員の現況調査発送業務

名簿管理の為, 会員の現況調査依頼文書及び前年名簿情報を, 年次代表者の方宛に幹事3名で発送しました。平成28年8月11日(木)家政事務局にて行いました。回収した現況調査資料は平成28年9月4日(日)に岐阜大学同窓会事務局宛で一般書留にて発送予定です。

### 2 今後の活動

(1) 岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトの会員データの更新  
岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトを積極的に活用できるようにする為, 現況調査の結果を同窓会会員専用サイトに反映済です。

#### (2) 同窓会総会

次期総会は平成31年8月に開催予定です。

## 英語 (事務局 岐阜市立岐阜西中学校 水崎 綾香)

昨年度, 岐阜県教育委員会教育長の松川 禮子様をお迎えして, 3年に1度の総会及び懇親会を実施いたしました。総会・講演会には約120名, 懇親会には約80名と, たいへん多くの同窓生の方々にご出席いただきました。総会・講演会は以下のように催されました。

平成28年1月31日(日), グランヴェール岐山において10時より『平成27年度 岐阜大学教育学部英語英文学科・英語教育学科同窓会総会』

#### 【総会内容】

1. 会務報告/2. 会計報告/3. 会計監査/4. 役員改選

#### 【講演会】

『今後の小・中学校の英語教育の動向』

講師: 岐阜県教育委員会教育長 松川 禮子様

### ◇今後の活動について

会員の住所変更があった場合は, 評議会で各評議委員が書記に連絡していただきますようお願いいたします。

## 平成 28 年度 各学科同窓会事務局

講座名	学科	所在地		担当者	電話
国語教育	国語	〒509-7201	恵那市大井町 1073-1	恵那市立恵那東中学校	小島光太郎 0573-25-5261
社会科教育	史学	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	高木 良太 058-271-3545
	地理	〒503-0303	海津市平田町野寺 1023	海津市立海西小学校	坂口 亨 0584-67-3101
	法経	〒501-0515	揖斐郡大野町桜大門 457-1	健康福祉部 わかあゆ園	丸山 靖生 0585-32-2240
	哲学	〒500-8226	岐阜市野一色三丁目 1-3	岐阜市立長森北小学校	田中 明 058-245-5249
数学教育	数学	〒501-2105	山県市高富 2 8 4 5 番地 1	山県市立高富中学校	大石 章生 0581-22-1063
理科教育	物理	〒501-5123	郡上市白鳥町中津屋 360-3	郡上市立大中小学校	奥田 好紀 0575-82-2039
	化学	〒501-0413	本巣市見延 16	本巣市立一色小学校	白木 和雄 058-324-0603
	生物	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	山村 雄太 058-271-0320
	地学	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070 番地	岐阜市立長良中学校	武藤 正典 058-231-7207
音楽教育	音楽	〒501-4222	郡上市八幡町島谷 130-1	郡上市教育委員会 学校教育課	羽土 聡 0575-67-1468
美術教育	美術	〒502-0858	岐阜市下土居 2 丁目 27-1	岐阜市立青山中学校	小野由加里 058-294-1555
保健体育	体育	〒501-0494	本巣市下真桑 1000	本巣市教育委員会	川治 秀輝 058-323-7762
技術教育	技職	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070 番地	岐阜市立長良中学校	中西 健 058-231-7207
家政教育	家政				吉田 麻子 0568-65-9860
英語教育	英語	〒501-1151	岐阜市川部三丁目 30	岐阜市立岐阜西中学校	水崎 綾香 058-239-1444
学校教育	教育				安田 和夫 0584-78-1883

### ● 編集後記 ●

#### ◇人のつながり

大学で図工や美術の実践的な研究している関係で、「学校美術館」「虹色の巨大風船」「リレー版画」「カラフル・パラソル」などの題材の出前授業をしています。岐阜市内の学校を訪問するときがあれば、遠方の山間部の学校のときもあります。それぞれの学校の子もたちとの交流が楽しいことはもちろんですが、懐かしい方々との出会いによって心強くなり、また、ワクワクする気持ちになります。校長先生や教頭先生が学生時代の同期で、卒業以来40年ぶりにお会いする、学級担任や図工の先生が大学での教え子にあたり、教師として子どもたちと元気に生活している姿を目にするといった具合です。先日も、娘さんが大学で私の研究室の学生、お母さんが訪問先の学校の担任の先生、そして、おばあさんが美術教師のOBで長年の知り合い、ということがありました。三世代にわたるおつきあいです。また、「学生のときに先生の授業を受けていたので、とてもうれしいです」と微笑む現場の先生とお会いすることも、思いがけない出来事です。

このように、大学から各地の学校を訪問すると、いろいろな世代の先生方と久しぶりにお会いし、実践に際してお力添えをいただくことが多くあります。世間は狭いといわれますが、同窓生の皆さんとの出会いと支え合いによって、改めて思い出がよみがえってきます。これまで師範学校・学芸学部・教育学部といった制度的な変遷があり、キャンパスも長良から柳戸へと移り、柳戸でも既に30年が過ぎました。これからも様々な変化が生じることでしょうが、いろいろな世代の皆さんと再会することによって、人のつながりのすばらしさを実感し続けたいと考えています。

(広報部会 辻 泰秀)

### 同窓会報第 22 号の表紙

#### 《清涼》

箕浦希生(美術教育講座4年)

水の中が大好きなので、水の中をイメージして表現しました。大学3年の講義でテンペラ画を学び、綿密に描けるという魅力に魅かれ、髪の毛の流れを意識して描きました。



### 岐阜大学同窓会報第 22 号

発行日 / 平成 28 年 12 月発行

発行者 / 田口 和男

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1

TEL. 058-293-2344 (平日 10 時~15 時)

FAX. 058-293-2343 (24 時間)

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ : <http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~dousokai/> E-mail : [kyo\\_doso@gifu-u.ac.jp](mailto:kyo_doso@gifu-u.ac.jp)